

令和３年度 聖籠町幼児教育推進体制の充実・活用強化事業 有識者会議 次第

日時 令和４年３月２日（水）１５時～１６時３０分

場所 聖籠町役場 大会議室

次第

- １ 開会
- ２ 教育長あいさつ
- ３ 説明・協議
 - （１）令和３年度本事業取組報告
 - ①幼児教育の質と指導力の向上
 - ②一園一小から、複数園と小学校の新たな連携・接続方法の構築
 - ③聖籠町の幼児教育の積極的な発信
 - ④閉園・開園に向けたサポート
 - ⑤幼児教育アドバイザーの質の向上
 - ⑥下越地区保幼小合同研修会での発表事例
 - ⑦町立こども園閉園記念誌
 - （２）ご助言・ご感想・情報交換
 - （３）令和４年度からの取組について
- ５ 閉会

令和3年度 聖籠町幼児教育推進体制の充実・活用強化事業 有識者会議 議事録

令和4年3月2日（水） 15時～16時30分

聖籠町役場 大会議室

【協議】

（委員）

まずは、アドバイザーの方がいることの意味をすごく感じました。というのも、やはり町立・私立の別がある、こども園から幼稚園に変わっていく、その過渡期にありながら町立・私立との違いとか、研修の違いを越えながら聖籠町の幼児教育を一体的に推進されていく、それに当たってはアドバイザーの方の役割はすごいものなのだと感じました。新潟市にあってもやはり同じことだと思うので、学ばせていただいたことを私たちも活かしていきたいと思いました。

（委員）

本年度、コロナ禍で保護者の観覧が少なかったのですが、閉園の運動会のセレモニーの風船飛ばしは、親子で一緒に「今までこども園ありがとう」という感謝の気持ちが伝えられてとても良かったと思います。来年度は園が変わって仲のよいお友達と離れたり、子どもも保護者も不安があるのかなと思いますが、それに勝る安心や楽しみがあり、コロナ禍でも子どもは子どもらしく人のぬくもりを感じたり、幼児期に必要なことが少しでも多くできる年になるといいなと思います。子どもが笑顔で元気にたくましく成長してほしいです。新しいこども園・幼稚園の活動に期待したいです。

（事務局）

ありがとうございます。保護者の立場からまたいろんなシステムが変わることで不安もあると思いますが、よろしくお願いします。

（委員）

ありがとうございました。大変学ばせていただきました。幼児教育と小学校教育の架け橋部会が開催されていますが、必要な内容がここに全部詰まっているような気がしてなりません。それぐらい、今日も勉強させていただきました。ありがとうございました。改めてアドバイザーの役割が本当に重要だと思いました。アドバイザーの役割は現場と行政をつなぐとともに、町の幼児教育推進の中核そのものだと考えます。このアドバイザーの動きは、これから幼児教育センターをつくる市町村にとっては非常に勉強になるものだと思います。具体的には4点あります。

1点目はビデオ保育についてです。これはすごく有効だと思いました。私たちはよく現場で実際に公開保育を拝見するけれど、ビデオに撮って同じ場面を見ることによって意見が共有されやすくなるし、成果と課題が分かりやすくなる、これはコロナ禍において最も

有益な成果だと思っています。本当にそれが確実で素晴らしいと思いました。

2点目は「わくわくシート」です。これもいいなと思いました。特に若い先生方がどんどん力をつけていったというこの成果は、素晴らしいと思います。欲張るとしたら、5歳児の教諭については、毎日とは言わないけれど、10の姿がもし見えた場合それを欄外でもいいので明記するとよりよいと考えます。

3点目はカリキュラムの接続についてです。これも架け橋部会では課題となっていて、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムがバラバラに作成されていてつながりがないと言われています。それで、可能であれば、幼小一緒に作るといい、それぞれを持ち寄ってそれぞれが説明しあう場をつくれば、たとえば幼児教育の方で「この期ではこれを行いました」と説明した時に、小学校で「だったら4月のこの教科でこれにつながるができるね」という、そういうやりとりができる。

4点目です。小学校の幼小合同の研修会についてですが、これは教諭だけではなく、ぜひ小学校の管理職に入っていただきたいということです。これまでの様子を見てみると、やはり管理職が園での学びをすごく実感してそれを引き出すことが重要だと認識している学校は、ものすごくスタカリが進むんです。なので、園でつけている力が高いことを、管理職にこそ知ってもらうことが重要だと考えます。以上です。学ぶことばかりでした、ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。大変具体的にご指導いただきました。ビデオ研修についてですが、園長先生たちがおっしゃるのは、やはり同じ場面を共有できるよさがあるということです。それぞれ好きなところを見ると話し合いが深まらない。一日ではなく数日の遊びを追って撮影し、研究主任を中心に管理職が入って編集したものを見合うことで、先生方も非常に勉強になっていると思います。

(事務局)

コロナ禍というピンチが、逆にビデオ研修というチャンスになったという事例でした。園・小合同研修会には管理職にしっかり入るように伝えます。

(委員)

本日はありがとうございました。まず事前に送っていただきました資料も目を通していただき、この会がスタートした当初からのことを思い出しながら非常に感激しながら読ませていただき、今日の報告も聞かせていただきました。ありがとうございました。私からは大きく3点についてお話をさせていただきます。

まず一つ目は、先ほどから出ています幼児教育アドバイザーについてです。現行の学習指導要領が出る前に、文部科学省から先行した自治体の例として福井県の幼児教育アドバイザーの例が8年以上前に出されていました。福井県は県全体が小さい自治体なので、公立・私立・幼保こども園かかわりなくそれを一体として見ながら保育についてアドバイスをする、幼児教育についてアドバイスをする幼児教育アドバイザーを設置したというのは、

10年前のお話でした。非常にすごいことだなと思いながら、新潟にはそういう取り組みはないだろうか、ぜひ入れてほしいと思いながら今日に至っています。今回の聖籠町では一昨年から始まってここまでの一年間の中で、現在の福井県などの自治体の取り組みについて知ることはないのですが、全国に誇ってもいいような取り組みなのではないかなと感じました。まず、何回も実際に足を運んで保育をご覧になって、その中からポイントをしぼりながら指導をなさる、そして共通の視点での協議を行うといったこと。さらにドキュメンテーション、実際の子どもの姿から子どものつぶやきや動きや姿からその保育について語るということ、ご指導いただくということは非常にその保育者だけでなく周りにいる同僚であるとか共に幼児教育に携わっている者にとって、明日の保育に活かせることにつながっていると思いました。そして、日案とか短期案の中に必ず振り返りを入れるPDCA、次にまたどうやっていこうという仕掛け・環境構成であるとか、保育者の援助であるとか、具体的に次に活かせる仕組みをまた新しい組織体制の中でも共通にしたということで、それを見ればどの園でも必ずそれを活かしてまた保育の改善に活かせるということが素晴らしいと思いました。これを続けて、また発信して、聖籠町だけではなく新潟県の幼児教育の方にも発信していただければいいなと感じました。

2つ目です。ホームページに園の取り組みを積極的に発信する、これを各園ではなく幼児教育センターの方で発信しているということに大きな意味があると思いました。行政側から幼児教育をしっかりと町全体として大事にしているんだということを、そして子どもの様子を発信していくということ、それがこの素敵なリーフレットとも合わせてなんですけれども、町の人とか地域の人たちとの理解につながると感じました。可能であればなんですけれども、町でこんなふうに幼児期の終わりまでに育ってほしいと接続に向かっている中で、この「生活する力」や「かかわる力」のこういう姿がこんなところから見られるというところを、毎回ではないがところどころ入るとリーフレットと実際の子どもの姿がリンクして理解が深まるのではないかと感じました。

最後に、閉園に向かう園についてこれだけ手厚く、私も見させていただきながら胸が熱くなる思いがしました。ここまで脈々と続けてきた町での幼児教育、そしてその中には積み重ねてきた質の高い保育についての誇りをもってきた方たちと地域の方たちの思いがあると思います。それが閉園という形ではあるのですが、でも次につながる新しい体制につながるんだということ、閉園への取り組みを町がバックアップして取り組まれて次につなげてきたということを私は感動して聞いていました。ありがとうございました。

(事務局)

昨年の有識者会議でも発信することが大事だとたくさんご指導いただいて、それを実現できたと思っています。

(委員)

本日は大変良い場にお招きいただき、ありがとうございました。アドバイザーさん、本当に頭が下がります。お疲れ様でございました。私の方からは、これまでの有識者会議で議論

になった点を踏まえて冒頭に教育長さんから次年度以降もという話がありましたが、そこに向けてのお話を少ししたいなと思います。

まず、この有識者会議で提案させていただいた幼児教育の質の向上についての研修の手立てが非常に充実して、そしてそれが実際になされている、そして成果を上げているということについてよく分かりました。それぞれの日課表や短期計画の観点というものを議論したわけですが、それが活かされたものになっていて、本当にまた研修が充実して先生方の力量が上がっていることを確信しております。大変素晴らしいなと思いました。

私の立場からすると、続いてお話ししたいのはやはり保幼小接続という観点です。閉園をして体制が整うのがいいよ次年度からということになります。ここからが実をいうと本当のスタートだなとこの事業については感じています。これまでの議論の中で、保幼小接続を考えたときに「育ってほしい10の姿」ということとか、あるいは非認知能力というのが話題になってなかなか網羅的にかえって分かりにくいんじゃないかということを議論したかと思います。その中で聖籠町さんとしては、それらを3つの柱に分けたわけですよ。『生活する力』『かかわる力』『学ぶ力』、これらに分けたことによって非常にこのリーフレットを捉えやすくなったと思っています。リーフレットの裏面ですけれど、幼児教育の方で子どもたちの具体的な姿をあげ、それが小学校一年生のこのような姿に結びついていくという流れ、非常にスムーズで見やすくなったし、聖籠町さんが何に力点をおいて目指しているのかが分かりやすくなったと思います。ですので、これがアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムに生きていく必要があると考えています。私は小学校ですので、スタートカリキュラムの方を中心に見るわけですが、そうすると「なかよし」「わくわく」「ぐんぐん」の3つのタイムという柱立てはしてあるんですが、このそれぞれの時間の中で例えば、うちの学校では「この時間は『生活する力』に関連することに重点を置いてこの時間をやりますよ」とか、「この時間は『かかわる力』の連携において重点を置いてやりますよ」という形にする。各小学校で、実際にスタートカリキュラムを運用する中で何に力点を置いていくかというプランをしっかりと立ててやるのが、各学校の特色を出しながら保幼小の連携をしっかりとつなげていくということに続いていくのではないかと考えています。ですので、それをこれから作っていく部分が必要になってくるかなと考えています。

それから、もう一つはうちの学校ではコロナ禍で書面上の連携はできるのですが、具体的に子どもたちの姿を見合ったりとか、先生方が交流したりという連携が今ストップしている状況です。それをしっかりやっていく必要があるだろうと、それであればこそお次年度とその翌年、二年間やらないとその実践と検証ができないことになります。ということで、そのあたりの実践と検証をすすめる上でやはりこの事業を継続していくというところの価値があるのではないかと考えました。大変素晴らしい取り組みです。ぜひそのあたりが続けられていたらいいなと思います。大変ありがとうございました。

(事務局)

保幼小の具体的なご指導だったと思います。ぜひそこらへんを重点にして小学校の校長先生に意識をさせていきたいと思います。ありがとうございます。

(委員)

ありがとうございました。まずはアドバイザーとセンター長、事務局の方々がここまで熱意をもって、そういうものが非常に伝わってくるんですね。努力されている姿、そして笑いと共に一緒に一生懸命やっている姿がうれしく思いますし、そこに参加させて勉強させてもらっていること、本当にありがとうございました。この機会ですので私の方から接続・連携についてお話しさせていただきたいと思います。

仕事上、私は新発田市の幼稚園・小学校・中学校を一年間で回らせてもらって、特別支援教育の方で見ながら通常の方も見ていくのですが、そこでやはり感じていることは幼稚園の教育方針と特別支援学級・特別支援教育の方針が非常に合っているんです、似ている。これは何かというと、アセスメントから発達課題・発達段階に沿って、ここでやっている一人一人の発達の姿・実態からこの子には何が必要かというような動き、そして計画を立てていくのが幼児教育であり特別支援教育なんですね。ところが、それもあるのですが実は学習指導要領というものがあって教科があって、この学年ではこれを教えなさいというものがあります、内容的に。それを子どもにどう合わせるかになってくるので、「初めに子どもの実態あり」と「初めに教科あり」、だけど根本的に考えればそれをどう砕いて教えるかになってくるので同じなんです、どうも私が学校を見ていくと、なぜこれが分からないんだという発想でいく場合があるんですね。そうすると何が起こってくるかというと、今毎週新発田市の教育委員会でも情報交換会というのをやっていますが、それは主に何をやっているかというと、不登校とかそういったお子さんたちの相談件数、相談があがってくる人たちに対しての話し合い、不登校とかそういった不適応を起こす子どもたちがやはり関わりとか自己実現をきちんとできないというところで引っ掛かってくるんですね。だからその辺のところ、小学校・中学校と園では発想がちょっと違っている、その辺をどうしていくかという連携のところにあると思うんです。具其他的に何が言いたいかというと、今聞いていて思ったのは、小学校へうまくつなぐため、接続のための連携というお話をされていたんですが、それは分かりますけど接続のためだけの連携ではなくて、その後ここからが大事で相互理解、相互のためになる連携をしていただきたいと思います。どういうことかというと、研修などの中であるいは授業を見合うというのもいいと思うんですが、たとえば小学校の授業といっても教科というよりは、むしろ生活や道徳など活動でもいいと思います。そういう中でこんないい姿が見られた、悪い姿ではなく良いところを見て、この姿になるために園では何が必要なんだろうというふうな話し合いだとか、あるいは小学校の先生が園を見に行けば本当に感動するものがいっぱい見れると思うんです。これをどうやって小学校に活かせばいいのか、そういう連携の在り方というのは必要なのかなと。それは聖籠町さんはできると思うんです。このシステムをつくり、園と小の連携ができています、ここがチャンスだと思います。繰り返しになりますが、接続のためにどう連携するかではなくて、小と園がうまくいくために、豊かな子どもたちとか人間関係の形成がつけられる子どもたちをつくるために、どう連携するかというのをまた考えていただければありがたいなと思います。ありがとうございました。

(事務局)

特別支援の視点から、相互理解の連携というキーワードをいただきました。後で説明しますが、来年度大事になるキーワードになりますので、ご指導を受けてまた考えていきたいと思います。

(委員)

今日はどうもありがとうございました。まず聖籠町の様子について本当に勉強させていただきました。センターの体制がきちんと整備されていると感じました。それに伴って研修体制が整備され、充実した研修も行われていることを発表から学ばせていただきました。特にアドバイザーが非常に重要な役割を担っていると思いました。園訪問の年間90回はやれるようでやれないと思います。あと園訪問後の指導をドキュメンテーションでされているということですが、非常に有効だということはもう分かります。しかし、これを作ること自体がかなりの労力・時間が掛かります。ここに聖籠町の思いが伝わる取り組みだと思いました。ありがとうございました。

私から二つお願いいたします。一つ目は私立・公立の保育園・幼稚園がある中で、それをまとめていって保育の質の向上とか充実というのをどのようにしていくのか、そうするとまた体制を検討していく必要があるのかなど、興味のあるところです。

二つ目は、研修についてです。幼児教育と小学校の合同研修は今までも行われていたと思うのですが、これが希望参加なのか年に1回は必ず参加するのかなど、どのような体制でやろうとされているのか、またこれまでどのようにされていたのかが気になりました。私も小学校勤務が長いので、分からない部分が非常に多いところが正直あります。そう考えると、小学校の先生方からできるだけ多く参加していただいて、10の姿を理解していただく。例えばこの活動は学活と体育という位置づけになっているけれど、実は10の姿のこれが発揮されている姿ですよとか、こういうところで出てくるんですよとか、カリキュラムを作る時や実際に進めていく中で具体的なイメージがもてると思いました。併せて、研修を通して保育者の資質をどのように向上させていこうかという見通しもあると、すごく有意義な研修になり、一層聖籠町の幼児教育が推進されるのではないかなと思いました。ありがとうございました。

今日はどうもありがとうございました。まず聖籠町の様子についてですが、本当に勉強させていただきました。センターの体制がきちんと整備されているというふうに感じました。それに伴って研修体制の整備もされておりますし、充実した研修も行われていると発表から学ばせていただきました。それから、特にアドバイザーが非常に重要な役割を担っているんだなと思いました。園の訪問、年間90回なかなかやれるようでやれないですよ。今日のような天気の良い日はいいでしょうが、そうでないこともあるだろうと思いますし、あと園訪問後のドキュメンテーションで指導などをされているということですが、非常に有効だということはもう分かるんですけど、これを作ること自体がかなりの労力・時間が掛かるなあとということを踏まえてでも何とかこうしていきたいんだという聖籠町の思いが伝わる取り組みだというふうに思いました。ありがとうございました。

私の方から大きく二つ。まず聖籠町の幼児教育の充実構想に向けた取り組みに全て繋が

っていくんだらうと思っているんですけど、先程センター長からも来年度が勝負なんだというお話があったと思いますが、そのあたりどういうふうにしていくのかというのが興味のあるところです。というのも、私立・公立の校種があつてそれから保育園・幼稚園がある中で、それをまとめていって保育の質の向上とか充実というのをどのようにしていくのか、そうするとまた体制を検討していく必要があるのかなど、そこが興味のあるところであります。

大きく二つ目ですが、研修についてです。今までの方のお話でもありましたけれど、幼児教育と小学校をつないでの合同研修というのが今までも行われていたと思うんですけど、これが希望参加なのか年に1回は必ず参加するのかなど、そのあたりどのような体制でやっていかれようとしているのか、またこれまでどのようにされていたのかが気になったところです。私も小学校畑ですので、どちらかというところと分からない部分が非常に多いなというところが正直ありました。そう考えると、小学校の先生方からできるだけ多くの方から参加していただいて、10の姿とかが分かってくるとそれがカリキュラムで例えばこれが学活と体育というふうな位置づけになっているんだけれど、実はそれは10の姿のこれなんだよとか、こういうところから出てくるんですよとか、イメージがもてるだけでカリキュラムを作る時とか実際に進めていく中で具体的なイメージがもてるかなと思いました。併せて、研修を通して保育者の資質をどのように向上させていこうかという見通しもあると、その研修の狙いとも直結すると思うんですけど、すごく有意義な研修になってより一層聖籠町の幼児教育が推進されるのではないかなと思ったところです。ありがとうございました。

(事務局)

町立に関しては、頻繁に訪問させていただいて日案をもとにした小さい研修を積み重ねていくとともに、私立の方も研修等でどのように入らせていただくか相談中ですが、町立の先生方が私立に派遣で行かれるので、短時間でいいので訪問の際に話をする場を設けていきたいと思っています。

町立・私立合同研修については、経験年数に応じて対象になる先生は基本的に全員参加し、その他に希望する先生も参加する。小学校の先生に関しては、校長先生とも話をしたのですが、基本的に低学年を担当している先生が主に合同研修に参加すると思いますが、先程お話しいただいたように管理職が入ってくれるようにこれから交渉していきたいと思います。

(委員)

この資料の発表とこちらの資料の発表の違いは何ですか。

(事務局)

カラー刷りの方は主に私がこの年間取り組んできたことになりまして、白黒の方は今年度下越地区保幼小合同研修会で「カリキュラムマネジメントに向けた評価」について事例発表したものです。

(委員)

私は、次にどう予算を確保するかということについて考えるのですが、この最後の成果と課題は少し寂しいというか曖昧で、自分だったら予算をつけられないかな、つまりもったいないという発想だったんです。それが最初に気になりました。私立と公立は、幼稚園が一緒になるが、今年度は一緒に研修会に参加しただけですか。

私の勝手論ですけど、今まで皆さんがお話しされてきたいろいろなツールとか道具とかですが、それらを部分的にでも共通で使うとか、私立も町立も同じように使うとか。つまり聖籠町の子どもたちに活かすのは一緒ですから、町立であろうが私立であろうが、「じゃあ、これを使いました」「このA私立は、リーフレットのこの部分を使いました」とか。単に集まってやりませんでした。で、「同じツールを使いました。本当にいいのはこれです」「私立も町立も、みんなこれは揃えて使いました」というふうにやればよくて、そのために来年も合同で研修をやらなければならないのですね、と言ってほしいと思います。

「ここまでツールを作りました」「みんないろんな園の特徴があるんだけど今度はこういうのを使ってみました、そうしたらこの道具は非常に汎用性がある」とか、「とてもいい」とか、それを検証するために必要なんだなどと言ってほしいなと思いました。わくわくシートもいいと思うし、ドキュメンテーションもいいと思うのですが、その道具がいかにお手軽に使えるかが大切だと思います。ヘビーなものはダメな今の時代です。重装備でいかないとできないのではなく、軽い感じで使えるけれどもとてもよかったというものがあると思います。そのために、もっともっと使って改善していかなければいけませんとか、スタートカリキュラムのままだと、こういうところが問題だとか、成果と課題、特に課題の方をしっかりと膨らませて具体的にしていくことで予算が確保できるということになるのではないかと思います。

リーフレットについても先ほどお話がありましたが、「こういうところがよかったけれど、ちょっとこういうところがまだ足りないようだ」「そこを改善しました、改善したいです」など、より明確にしていけば事業を継続できるかなという視点で見えていました。

私としては、様々なツールを私立と町立で、こんなに一緒に使えましたというような方向性でやっていくと、かなりのインパクトがあるのではないかと思います。ありがとうございました。

(事務局)

未来に向けたご指導、大変ありがとうございます。ちょうど町立の先生が派遣で私立に行くので、このツールの共有というのは実践しやすいと思います。